

全世界「『スポーツを通じた障害者の社会参加の促進』課題別研修」

2016年10月
～2021年3月



上)岩手県久慈市での卓球バレー大会
下)有限会社さいとう工房にて

背景/課題

スポーツには障害者への偏見や差別の払拭に貢献する力がある。スポーツを通じることで、障害者自身が自分の能力に対する自信や自尊心を強め、自立することが可能になる。

目的

- 障害者のエンパワメントや障害者と健常者の交流を通じた障害者の社会参加を進めるツールである障害者スポーツに注目し、施設や道具等、途上国の状況や障害分類に適した工夫等も含めた障害者スポーツに関する知識を習得する。

活動内容

- 研修員は約1か月間日本に滞在し、日本の障害者スポーツの歴史や概要などを学ぶ。
- 実践的技術として、フライングディスクやボッチャ等の様々なスポーツを体験する。

成果

- 研修員が、障害者のエンパワメントや障害者と健常者の交流を通じた障害者の社会参加を進めるツールとして、障害者スポーツの役割と重要性を説明できるようになる。
- 研修員が各種障害者スポーツのルール、指導法、指導員育成、教材開発、広報等に関する知識・技術を身に着ける。また、学んだ知識や技能を自国での障害者スポーツの普及に活用する。
- 研修員が自国での障害者スポーツの適用可能性を検討し、帰国後の活動計画を作成する。
- 研修員が途上国での実践を題材に、障害者スポーツの実施や普及・啓発に関する知見を共有し、自国への適用のために必要なアイデアを得る。